

# 埼臨技だより

発行所 埼臨技 埼玉県臨床検査技師会

〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095

URL:<http://www.sairingi.com/> 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第57回埼玉県公衆衛生大会が開催される!!

第57回埼玉県公衆衛生大会が、平成25年11月22日(金) 14:00から埼玉共済会館6階ホールで開催されました。本式典は県内で公衆衛生事業や国民健康保険事業において顕著な功績をあげられた個人、団体に対し、知事から表彰を行うもので、公衆衛生事業功労者(受賞者数:個人93名、団体4団体)、国民健康保険関係功績者(受賞者数:個人38名)が表彰された厳粛で格式の感じる式典でした。主催者として上田清司埼玉県知事からのご挨拶がありました。知事は挨拶の中で公衆衛生の重要性の認識と、県民の健康の保持・増進、疾病予防に対し各団体の行っている活動について、とて



も高い評価をもっているというお言葉をいただきました。埼玉県臨床検査技師会推薦の奈良豊氏(埼玉医科大学総合医療センター)、鳥山満氏(獨協医科大学越谷病院)、羽鳥浩司氏(埼玉社会保険病院)、小松正人氏(さいたま赤十字病院)の4氏が公衆衛生事業功労賞を受賞されました。公衆衛生事業功労賞は「県民の生命と健康を守る地域医療の提供、地域のボランティアによる子育て交流会や食生活改善講座の実施、環境衛生向上のための

狂犬病予防活動など、各分野において本県の公衆衛生を長年支えていただいた方々」の功績を讃え、表彰されるものです。4氏とも研究班活動、精度管理事業活動、健康祭り、がん撲滅啓発事業、技師会理事等への長年にわたる貢献が地域医療への業績として讃えられたものです。栄えある公衆衛生事業功労賞を受賞されましたこと、誠にありがとうございます。さらに来賓として埼玉県臨床検査技師会砂川進会長が紹介され、埼玉県における公衆衛生事業への当技師会の責任と重要性を改めて感じました。式典後の記念撮影のお願いに上田知事も快くお引き受けいただき、とても思い出になる写真も撮ることができました。今後も埼玉県の公衆衛生を支え地域貢献ができる技師会であるよう、みんなで協力し継続した活動を続けていきたいと思っております。

(文責:岡田茂治)



上田知事を囲んでの記念写真  
写真左より、奈良氏、鳥山氏、砂川会長、上田知事、小松氏、羽鳥氏

## 受賞者 喜びの一言

### 埼玉医科大学総合医療センター 奈良 豊

この度、第57回埼玉県公衆衛生大会に出席し埼玉県公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。今回、このような栄えある賞をいただけたことを埼玉県臨床検査技師会の砂川会長をはじめとする理事の皆様や諸先輩方に深く感謝いたします。今回の受賞は自分の功績より、埼臨技の公益事業が認められ、その事業に活動された会員の皆様の代表の受賞だと思います。

埼臨技は今年度に公益社団法人に移行する最大の事業があります。理事として埼臨技の発展のために微力ですが頑張りますのでよろしくお願いいたします。

### 獨協医科大学越谷病院 鳥山 満

この度、11月22日に埼玉県公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。砂川会長をはじめ理事の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

今回の受賞は血液検査研究班、埼玉県医師会精度管理委員ならびに埼玉県臨床検査精度管理専門委員としての活動を評価していただいたおかげとっております。当時お世話になった研究班の方々やご指導をいただいた諸先輩方にこの場を借りてお礼申し上げます。

今後も公衆衛生向上に貢献できる臨床検査技師として努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

### 埼玉社会保険病院 羽鳥 浩司

この度、第57回埼玉県公衆衛生大会におきまして公衆衛生事業功労者に対する知事表彰を受賞させていただきました、誠にありがとうございました。



で起こりえる事例であり、今すぐにも役立つ知識であった。参加された受講者の中には新入職員の方もいたと思うが、今回得た知見をもとに今後の業務に役立てていただきたいと思います。

(文責：中野 将)

## テーマ **Let's go BML Laboratory!!**

主催 血清検査研究班

実施日時：平成25年9月29日 14時00分～16時30分  
会 場：BML総合研究所 点数：基礎教科－20点  
講 師：霜島 正浩（株式会社ビー・エム・エル）  
参加人数：会員36名

出席した研究班班員：齊藤 雅一 庄司和春 佐野悦子 相坂由里子 持田和紀 鈴木淳子  
研修内容・感想など

初めにBMLラボの紹介ビデオを鑑賞した。

次に、霜島氏による説明で、業務システムと検査システムの両方を見学した。業務システムでは、検体の仕分けから分注までの検査前工程を見学することができた。検体数が多いセンターでは、大量・高速処理が必要となるため、各工程で自動化が進んでいた。

検査システムは、生化学、血液、免疫、微生物検査室、さらには研究開発や治験検査室と多くの検査室を見学した。数多くの分析装置とロボットで構成されており、大量の検体を高速処理する様子を見せていただいた。また、微生物検査室では菌種を同定する細菌自動検査装置、細菌自動塗布装置、鏡検結果音声システムなどの説明があった。

BMLの検査項目はルーチン特殊検査合わせて約4000項目あり、全臨床検査分野の要望に答えられる体制が整っている。

今回のラボ見学で、検体数が多いセンターならではの工夫がされており、会員の方に満足していただけたと思う。

(文責：鈴木淳子)

## テーマ **輸血と鉄過剰症の診断について**

**講演1：『輸血副作用（鉄過剰症）に対する輸血検査部門の取り組み』**

**講演2：『鉄過剰症の理解を深めるために』**

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成25年10月25日 19時00分～20時30分  
会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科－20点  
講 師：講演1：坂口 武司（防衛医科大学校病院 輸血・血液浄化療法部）  
講演2：岡本 翔（獨協医科大学越谷病院 腫瘍センター）

共 催：ノバルティスファーマ株式会社

参加人数：会員52名 賛助会員4名

出席した研究班班員：渡邊一儀 武関雄二 見城千春 宮川勇 洞庭敬子 神戸考裕  
長谷川卓也 佐藤祥子

研修内容・感想など

今回の研修会は、「輸血と鉄過剰症の診断」をテーマに、2名の講師をお招きした。

はじめに、坂口技師より、RCCの過剰投与が疑われた症例や、輸血量とフェリチン値の比較などの具体例を紹介していただいた。輸血後鉄過剰症は、重篤な副作用として位置付けられているにも関わらず、認識度が低い現状があり、副作用として報告されることもほとんどない。



患者にとって有害事象であると認識することが重要であり、今後、輸血同意書に輸血後鉄過剰となる可能性があることを記載する、RCC輸血量が規定量に達した時点で通知するシステムを構築するなどの取り組みを検討中であることをお話しいただいた。他施設でも今回の内容を参考にし、検討していくべきだと思った。

次に、岡本先生より、鉄過剰症の診断や鉄の動態、血液疾患患者の具体的なデータとキレート療法などについてご講演いただいた。フェリチン値が高いと生存率が低くなるというデータも示していただき、フェリチン測定と鉄キレート療法の重要性も理解できた。まずは鉄過剰症とフェリチン測定の重要性を周知させることが必要であり、そのためにも医師と輸血部門が連携することが重要であると思われた。

今回は鉄過剰症の理解を深めることができる有意義な研修会であった。

(文責：佐藤祥子)

テーマ **鏡見実習で同世代の仲間と学ぼう、  
スキルに合わせて進めていくので、心配ご無用！  
初心者・初級者血液形態セミナー**

主催 血液検査研究班

実施日時：平成25年10月27日 9時30分～16時00分

会場：大東文化大学東松山キャンパス9号館 点数：専門教科ー20点

講師：血液研究班員

参加人数：会員40名 学生9名

出席した研究班班員：星孝夫 田中正 網野育雄 根岸永和 橋口恵子 原誠則 圓田和人  
大野みどり

研修内容・感想など

今年も実技前に簡易テストを実施した。顆粒球系・リンパ球系、赤芽球、異型リンパ球等初心者にとっては難しい細胞から、初級者にはあと一息で鑑別できそうな細胞まで出題し、レベルごとに班わけを行なった。その後は田中技師より末梢血の血液細胞の基本的な見方について講義していただいた。

午後は、初心者コースはディスカッション顕微鏡を用いて基本的な細胞形態の見方を確認すると共に、顆粒球系幼若細胞や反応性異型リンパ球なども観察し、最後には正常細胞に戻って、特にリンパ球・単球を再確認した。初級者コースはCMLやCLL、ALL等の白血病の症例から、EBウイルス感染による反応性の異型リンパ球の出現する伝染性単核球症症例まで、個々の細胞形態、さらには標本全体からどのような疾患に結び付いていくかのプロセスを学んでもらった。

下記に、毎年恒例となっているじゃんけん大会で決まった方に実習の感想を書いていただいたものを紹介する。

(文責：橋口恵子)

**血液形態セミナーに参加して**

先日は血液形態セミナーに参加させていただき本当に有難う御座いました。午前中の講義で印象に残ったのは「血球形態の特徴を自分の言葉で表現出来るようにする」という指導でした。

各血球形態の特徴の一覧を自分なりに作成することにより形態性状の記憶に役立ちました。

午後の末梢血の鏡検法は①弱拡大(200倍)で細胞の分布状態を確認後、辺縁・引き終わりに多い異常細胞とその集塊・血小板凝集・フィブリン析出の有無を確認し最適鏡検部を探す。②中拡大(400倍)で数え、判定に紛らわしい細胞は強拡大(1000倍)で確認。壊れかけの細胞は数えない等、わかりやすく教えていただきました。この講義・実習で学んだことを少しでも日

常業務に活かせるよう努力してまいります。

行田中央総合病院 入江美与子

午前中は出席者全員で、テキストに沿って標本の作製法や白血球の分類、赤芽球の分類などを学びました。基礎からわかりやすく教えていただき、基本細胞から異常細胞まで解説を交えての講義を受けました。また細胞形態の鑑別ポイントについて、教科書には書いていないユニークな覚え方も教えていただき印象深く覚えることができました。

午後は午前中に行った組分けテストの結果によって、初心者と初級者に分かれて実習を行いました。初級者コースでは、一人ずつ顕微鏡を用意して症例スライドを観察しました。観察するときのポイントや注意点、また様々な疾患の特徴を教えていただきました。一班に一人の講師がついて指導してくださり、細胞の目合わせや質問等が行いやすい雰囲気の中で多くを学び吸収することができ、とても充実した実習でした。今回のセミナーで学んだことを、今後の業務に生かしていきたいと思えます。

さやま総合クリニック 古賀文子



## テーマ 冬季のウイルス感染症

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成25年11月8日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 901号室 点数：専門教科ー20点

講師：篠原美千代（埼玉県衛生研究所）

参加人数：会員38名 賛助会員1名

出席した研究班班員：穴原賢治 長崎広美 阿保一茂 榊原外江 鈴木勤 富井貴之 菊地孝司  
立塚梓

### 研修内容・感想など

冬季のウイルス感染症ということで、インフルエンザウイルス、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎について、それぞれのウイルスの構造や流行の特徴等を講演していただいた。

インフルエンザウイルスは内部構造タンパクの抗原性の違いにより、A型・B型・C型に分類される。A型は変異が起りやすく、抗原変異や鳥型・ブタ型・ヒト型が交雑することにより、新型インフルエンザが誕生する。A型は8本の遺伝子を持つが、なかでもヘマグルチニン（HA）とノイラミニダーゼ（NA）が重要でこれらの組み合わせによりH<sub>2</sub>N<sub>2</sub>O<sub>4</sub>の型が決定する。HAはウイルスが細胞に感染する際、重要となり、これによりヒト・鳥・ブタ等の宿主に感染し易いかが決まる。NAは細胞内で増殖したウイルスが外へ出ていくときに重要で、抗インフルエンザウイルス薬はこのタンパクをターゲットにしている。近年、鳥型インフルエン

ザウイルスがヒトに感染する事例が発生しているが、これは本来、ヒトに感染することのない鳥型インフルエンザウイルスがヒトに感染しやすい性状に変異等を起こしたためである。

RSウイルスは主として11月～1月に流行する。A型とB型に分類されるが一般的にA型の方が重篤になる。2歳頃までにはほぼ全ての乳幼児が感染するとされるが終生免疫を獲得することとはなく、何度でも再感染を起こす。年長児や成人で咳等の呼吸器症状を認める場合は可能な限り0～1歳児との接触を避けることが発症予防につながる。

感染性胃腸炎では、主にサポウイルスとノロウイルスについて説明していただいた。サポウイルスはこれまで春先～初夏にかけて流行し、乳幼児に感染が見られ、保育園や学校で集団感染が見られるとされてきたが、近年、高齢者の感染が見られ、高齢者介護施設で集団発生が認められている。

ノロウイルスは毎年10月～4月頃に集団発生事例が多発しており、小児～高齢者まで広い範囲に感染し、非常に感染力が強く、感染すると3週間程度糞便中に排泄される。カキ等の二枚貝からの感染が知られているが、検出されるウイルス量は二枚貝より患者便・患者吐物で圧倒的に多い。これらの便や吐物から二次感染を引き起こすが、接触感染だけでなく、患者便・患者吐物の不適切な処理により乾燥してウイルスが埃とともに舞い上がり空気感染を起こすこともある。

これから流行のピークを迎えるウイルスの特徴を詳しく知ることができ、感染予防および感染拡大を防ぐ上で、非常に有意義な内容であった。

(文責：立塚 梓)

## 埼臨技ひろば

### 平成25年度 秋の埼臨技有志ゴルフコンペ 優勝者コメント

朝晩の寒さも厳しくなり、コンペ前日の天気予報では悪天候の予報でしたが、当日は何とか天気も荒れることなく楽しいゴルフができました。今回はミスショットが結果オーライと予想外のHDCPがついたことで好スコアの方を押しつけて恥ずかしながらも優勝してしまいました。また、同組でラウンドして下さった方たちの穏やかな雰囲気感謝しています。埼臨技のゴルフコンペはいつも和やかな雰囲気を楽しませてもらっていますので、ゴルフに興味のある方はお気軽に参加してみませんか？

(文責：伊藤隆史)



- 優勝：伊藤 隆史（西武入間病院）  
準優勝：遠藤 敏彦（川口市立医療センター）  
3位：野瀬 和彦（深谷赤十字病院）



※次回は平成26年5月25日(日)  
開催予定です。



平成25年度  
社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第8回 理事会議事録

日 時：平成25年11月14日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席者：砂川、津田、神山、前原、矢作、奈良、  
猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、  
藤井、長澤、小関、茂木、小山、山口、  
野瀬、遠藤、細谷

Ⅰ. 行動報告(平成25年10月10日～平成25年11月13日)

10月10日(木)第7回理事会：

砂川、津田、前原、岡田、奈良、  
猪浦、長岡、伊藤、島村、松岡、  
小島、濱本、藤井、長澤、小関、  
茂木、小山、野瀬、遠藤

10月16日(水)第43回埼玉県医学検査学会第1回  
実行委員会：岡田、長岡

10月26・27日(土・日)第2回首都圏支部学会：

砂川、津田、神山、矢作

10月26日(土)一都八県会長会議ホームページ運  
用委員会：砂川、矢作

10月28日(月)第42回埼玉県医学検査学会第12回  
実行委員会：

奈良、松岡、濱本、長岡

11月9日(土)看護協会医療安全大会：神山

11月11日(月)第42回埼玉県医学検査学会第13回  
実行委員会：

奈良、松岡、濱本、長岡

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 1) 第24回埼玉県大腸がん検診セミナーに後援する回答をした。
- 2) 一般検査TOCHIGIセミナーに共催及び参加協力の回答をした。
- 3) ピペット創刊号の各施設へ配布(創刊号は1,000部)について

4) 第5回埼玉輸血フォーラムに後援の回答をした。

5) 看護協会より第7回埼玉医療安全大会出席のお礼状が届いた。

6) 「平成25年度日臨技臨地実習指導者講習会」について

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第414号11月15日発行予定

3 事業部

1) 第8回深谷市福祉健康まつりについて(血糖測定器メーカーの変更、まつり中止の件)

2) 平成26年賀詞交歓会の招待状及び案内状を11月だよりと合わせて発送予定

4 学術部

1) 日臨技関甲信・首都圏支部生理検査研修班研修会案内

2) 日臨技関甲信支部指定講習会【輸血】案内

3) 埼臨技会誌Vol.60 No.3発行予定(18日納品予定)

4) CD-ROMサーベイ参加施設の募集について

5 精度保証部

1) 平成25年度施設認証申請：現在9施設の申請がある。

平成25年度施設認証委員会を11月下旬に開催する予定。

6 会計部

1) 日臨技指定講習会運営資金150,000円の入金があった。

2) 極東製薬より擬似便の特許使用対価262,688円の入金があった。

3) だより413号印刷代等103,477円を石井印刷に支払った。

4) 日臨技より「全国検査と健康展」助成金100,000円の入金があった。

5) 日臨技より会費11名55,000円、入会金11名5,500円、合計60,500円の入金があった。

7 精度管理委員会

1) 平成25年度速報を10月15日発送し、Web掲載を行った。

8 関甲信支部

1) 10月26日、一都八県会長会議ホームページ運用委員会を開催した。

9 第42回埼玉県医学検査学会

1) 10月28日、第42回埼玉県医学検査学会第12回実行委員会を開催した。



2) 11月11日、第42回埼玉県医学検査学会第13回実行委員会を開催した。

#### 10 第43回埼玉県医学検査学

1) 10月16日、第43回埼玉県医学検査学会第1回実行委員会を開催した。

### Ⅲ. 承認事項

#### 1 事務局

1) 会員動向（会費納入済）（平成25年度分）  
会員数 2,315名  
（新入会員187名〔平成24年度会員数2,256名〕  
賛助会員 70社〔平成24年度 69社〕  
平成25年11月6日現在

2) 日臨技各賞受賞候補者推薦について

#### 2 総務部

1) 埼臨技会誌Vol.60—特集号発送費について

#### 3 事業部

1) 平成26年賀詞交歓会予算案について  
2) 日臨技広報誌「ピペット」50部を第42回埼玉県医学検査学会での配布について

#### 4 学術部

#### 5 埼臨技学術データ使用願いについて

1) 2012年度CD-ROMサーベイ  
2) 2009年度CD-ROMサーベイ

#### 6 第63回日本医学検査学会座長推薦について

1) 第63回日本医学検査学会座長候補者に以下の9名を推薦した。

微生物：115374 金田 光稔  
（浦和医師会メディカルセンター）

免疫血清：114270 庄司 和春  
（埼玉医科大学総合医療センター）

臨床化学：111078 三木 隆治  
（獨協医科大学越谷病院）

病理：114818 渡邊 俊宏  
（㈱アムル上尾中央臨床検査研究所）

生理：114211 並木 薫  
（埼玉県済生会栗橋病院）

110833 矢作 強志  
（川口市立医療センター）

公衆衛生：114974 阿保 一茂  
（さいたま赤十字病院）

情報システム：110825 下田 達夫  
（川口工業総合病院）

チーム医療：110108 遠藤 敏彦  
（川口市立医療センター）

#### 7 精度保証部

#### 8 会計部

### Ⅳ. 議事の経過の概要およびその結果

定款24条の規定により、会長 砂川進氏が議長となった。

#### 事務局

1. 季刊誌「ピペット」配布協力施設の募集について（約10施設募集12月中旬締切）

砂川会長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で、浦和医師会メディカルセンター、済生会川口総合病院、埼玉県済生会栗橋病院、深谷市・大里郡医師会メヂカルセンター、獨協医科大学越谷病院、上尾中央医科グループ上尾中央総合病院、埼玉医科大学病院、埼玉医科大学総合医療センター、埼玉医科大学国際医療センター、さいたま赤十字病院、川口市立医療センターの11施設とすることを決定した。

#### 総務部

#### 事業部

#### 学術部

#### 精度保証部

#### 会計部



1. 平成26年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会のご案内  
日時：平成26年1月10日(金) 18:30~21:00  
会場：ラフレさいたま 5階 桃の間  
会費：8,000円(正会員・賛助会員一律)

2. 埼臨技事務所の年末年始休暇について  
平成25年12月28日(土)~平成26年1月6日(月)

## 求人案内

- 埼玉県立がんセンター**  
採用条件：臨時職員  
連絡先：048-722-1111（内線5225） 検査技術部 岩田
- 株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター**  
採用条件：正職員、臨時職員  
連絡先：049-234-7310 総務部 採用担当 古田島
- 一般社団法人 大宮医師会メディカルセンター**  
採用条件：臨時職員  
連絡先：048-665-6559 菊池
- 医療法人社団 協友会 東大宮総合病院**  
採用条件：正職員  
連絡先：048-681-0366 人事課 採用担当
- 本庄総合病院**  
採用条件：正職員  
連絡先：0495-22-6111（内線137） 総務課 立石、橋本
- さいたま赤十字病院**  
採用条件：常勤嘱託  
連絡先：048-852-1196 人事課 松本忠通
- 公益財団法人 埼玉県健康づくり事業団**  
採用条件：臨時職員  
連絡先：048-859-5174（内線228） 事業部健診課 野寺さとみ

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にて  
ご確認をお願いいたします。

## あとがき

「チーム」。よく使われる言葉ですが、定義は何かと聞かれても私は明確に答えることができません。改めて調べてみると『各メンバーの成果の総和を越える成果を出すことが前提とした集まり』であり『メンバー間の協力関係を通じて、相乗効果を生み出すことが求められている』という見解がありました。そして『相乗効果が最大化されるようなメンバー同士の協力体制』がチームワークであると…。

私は、学会担当理事として実行委員会というチームへ途中から参加させて頂きました。右も左もわからず御迷惑かけ通しでしたが、ナイスなチームワークの結果、第42回埼玉県医学検査学会が盛会裏に終了しました。お疲れ様でした！

(長岡 記)

